

天保十三年正月

板元和



四條南洞
大芝居
狂言番附

代名
有袋屋
部五太夫

環中出鉤鐘

而狂言

藝乃空場

狂言

このふちうた

第一の趣向の若殿の色狂花のつどり

洛西代時嵐

第二の討略の赤老の忠義の花のつどり

鳴戸代帰帆

第三の讀合大名の騒動の花のつどり

眞殿代落扇

第四の難題の唐使の曲者花のつどり

城外代秋月

第五の見立の浪人の貧苦の花のつどり

中山代晚鐘

第六の晒落の町家の戀世の花のつどり

小倉代暮雪

第七の思附の悪者の心中の花のつどり

深敷代夜雨

第八の納祝の國主の再興の花のつどり

廣庭代夕陽

加狂言
おまん
桂川連理棚
五本

長考
劇
出
市
三
角

作者
藤村
三
郎

三
夫
夫
夫
夫
夫
夫
夫
夫

作者
藤村
三
郎

三
夫
夫
夫
夫
夫
夫
夫

作者
藤村
三
郎

三
夫
夫
夫
夫
夫
夫
夫

作者
藤村
三
郎